

二戸地区の人工造林が200haに増大 ～事業体連携により再造林が着実に浸透～

1 はじめに

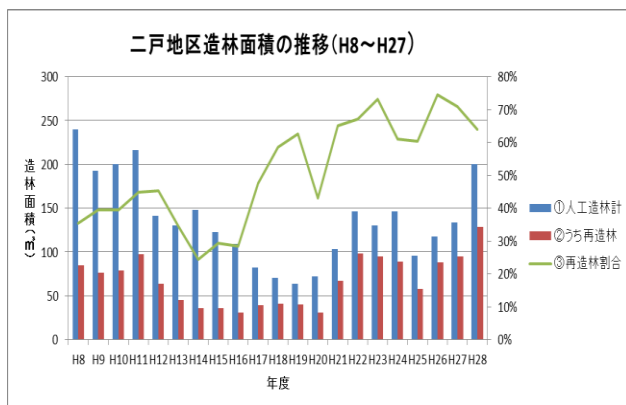
二戸地区においても、人工林資源の充実により主伐等の伐採が進む一方、伐採後も再造林されない植栽未済地が増加していました。

このような中、近年、地域けん引型林業経営体の再造林推進の取組が進み、着実に造林実績が増加し、平成28年は前年を70ha近く上回る状況となっています。

2 二戸地区の造林実績

平成28年度の二戸地区の造林実績は200ha(10月末現在。補助実績のみ。)となり、最も造林実績が少なかった平成19年度(64ha)の3倍、平成11年度(216ha)に相当する規模となりました。造林実績のうち再造林は128haで全体の64%を占めており、樹種別ではカラマツが82%となっています(下表)。

事業主体別では、二戸地方森林組合(以下「二戸森組」)が全体の56%を占めています。



3 造林面積の増大の背景

このように二戸地区での造林実績が拡大しているのは、造林を行う二戸森組と前生樹の主

伐を行う素材生産業者との連携が功を奏している点です。素材生産業者は、造林を希望する森林所有者に配慮し、造林し易いよう残材・枝条等の整理を行い、二戸森組に現地を引き渡します。この結果、効率的な地帯と植栽がなされています。

二戸森組で造林を担当する小野寺森林施業プランナーは、「人工林資源が充実し、主伐を選択する所有者と長伐期施業を選択する所有者の2つに分かれてきている。森林の生育状況等を踏まえ、主伐と長伐期施業の選択について、適切なアドバイスを行っている。」と取組について語っています。



【再造林の状況】

4 おわりに

二戸森組では、特定間伐促進計画に基づき、造林を進めている一方、森林経営計画の作成に若干遅れが生じています。これは、主伐・造林という作業は間伐のように集約化施業に直結しにくいことが要因です。二戸森組では、既造林地を含む周辺森林を既作成済みの森林経営計画対象森林へ取込むことを進めています。

当普及区においても、森林経営計画の作成促進に向け、引き続き取り組んでいきます。